2021年6月13日主日礼拝説教　「あなたがたは地の塩です」　マタイ５：１～16

IGM釧路・白鳥・深川教会牧師　川嶋直行

ハレルヤ！主の御名を賛美します。

１，塩の価値

13、14節　あなたがたは地の塩です。もし塩が塩気をなくしたら、何によって塩気をつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけです。あなたがたは世の光です。山の上にある町は隠れることができません。

イエスさまは、弟子たちに向かって「あなたがたは地の塩です。」と仰り、続けて「あなたがたは世の光です。」と仰いました。塩と光、一見何の関係もないと見えますが、これは、クリスチャンの、あるいは、キリスト教会のこの世における二つの役割を意味しています。塩は、地味な役割、一方、光は積極的な役割です。

どちらも、欠かすことが出来ない、キリスト教会の大切な役割ですが、今朝は、どちらかと言うと、地味な役割である「地の塩」について思いを巡らしてみたいと思います。塩（NaCl塩化ナトリウム）は、私たちの生活に欠かすことが出来ないものです。人は、塩がないと生きて行けません。現在では、塩は簡単に手に入りますが、昔は、とても貴重な代物でした。

海のない甲斐の国（山梨）に領地を持つ武田信玄は、同盟国の駿河国（静岡県）から食塩や魚介類を輸入していました。ところが1567年、信玄は、駿河国の今川氏との同盟を破棄し攻め入ろうとした為、今川氏は、武田領内への塩留（塩止め）を行いました。これにより、信玄の領民は生活が困窮し、健康被害が懸念されるようになりました。その時、越後国（新潟県）の上杉謙信が、敵対していた武田の領民の苦難を救うべく日本海側の食塩を送りました。そこから、「敵に塩を送る」という諺が生まれたとされています。

それだけ、塩は、人々の生活になくてはならないものなのですね。ちなみに、サラリーマンのサラリーは、塩（ラテン語のサラリウム）に由来するそうです。塩が、お金と同等の価値があったのですね。イエスさまは、地味だけれども、人が生きて行く上で、欠かすことができない塩を例に引いて、「あなたがたは世の塩です。」と言われたのです。

キリスト者は、この世では少数派です。地味な、目立たない存在かもしれません。しかし、少数派であっても、地味であっても、この世に欠かすこと出来ない、特別な存在であるということを、私たちも、もう一度、自覚を新たにしたいと思います。

２，永遠の塩の契約

旧約聖書において、神様とイスラエルの間で結ばれた契約は「塩の契約」と呼ばれます。

民数記18章19節にこうあります。「イスラエルの子らが【主】に献げる聖なる奉納物をみな、わたしは、あなたと、あなたとともにいる息子たちと娘たちに与えて、永遠の割り当てとする。それは、【主】の前にあって、あなたとあなたの子孫に対する永遠の塩の契約となる。」

「塩の契約」とは、「永遠に変わることがない、不変の契約」という意味ですね。普通、あらゆるものは、時間と共に、腐敗して行きます。しかし、塩には、防腐作用があって、塩漬けにした、魚とかは、保存食となりました。「塩の契約」とは、永遠に変わることがないということを意味しています。

イエスさまは、よく「パリサイ人のパン種」に気を付けなさいと言われました。パン種は、パンを膨らませる役目があります。食べる人にとっては、柔らかくするので、食べやすいのですが、契約という点からすると、パン種が混じると、変質して行く為、取り除く必要があったのですね。

ユダヤ人たちは、安息日毎に、家の中からパン種を取り除き、パン種の入らないパンを焼きました。そして、パンを食べるときに、塩を振り掛けるそうです。パン種を除去し、塩を掛けるというのは、神様との契約が、どんな場合でも、変わることがない、永遠の契約であることを、思い起こすためだったのですね。。

私たちは、イエス様を信じたとき、イエス様と「永遠の塩の契約」結んだのです。神様は、私たちを、永遠の愛を持って愛することを約束し、私たち信仰者も、イエス様を愛し、イエスさまについて行くことを、約束しました。この契約は、永遠に変わることがありません。

人の心は、移ろいやすいものです。ほおっておくと、水のように、低いところに流れて行きます。ノアの洪水の前の状況を、聖書はこう言っています。「【主】は、地上に人の悪が増大し、その心に図ることがみな、いつも悪に傾くのをご覧になった。 それで【主】は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。」（創世記6:5、6節）

しかし、その中にあって、ノアは、ひとり、神への信仰を貫き通しました。私たちクリスチャンは、少数であっても、この世にあって、神を信じる信仰を持ち続けて行くのです。それが、イエスさまが、「あなたがたは地の塩です。」と言われたことの意味だと思います。

主の御名によって祈ることが出来るのは、この地上において、イエス様の救いを知っているキリスト者だけです。教会が、祈ることを止めたら、誰が主に執成すのでしょうか。聖書の言葉を宣べ伝えることが出来るのは、キリスト者だけです。もし、教会が、福音を宣べ伝えることを止めたら、誰が、永遠のいのちの救いを伝えるのでしょうか。それは、塩が塩気を失うのと同じことです。

私たちは、もう一度、自分に与えられている使命、キリスト教会のこの世における「地の塩」という役割の重要性を確認させて頂きたいと思います。「塩が塩気を失う」とは、私たちキリスト者が、あるいは、教会が自分の役割を放棄する、もしくは、使命を忘れてしまうことです。

料理に必要な塩の量は、そう多くはありません。少し入れれば、味が引き立ちます。私たち、キリスト者は、少人数ではあっても、たとえ、ひとりであっても、その場所に留まり、地の塩としての役割を果たして行くのです。家族の中に、一人、クリスチャンがいることは、家族全体にとっての大きな祝福なのです。

私たちは、イエス様から「あなたがたは地の塩です。」と宣言されていることを、しっかりと受け止めさせて頂きたいと思います。コロナ禍の中で、自分のことで精いっぱいになってしまう弱い者ですが、主がともにはらいておられます。使命を成し遂げて下さるのは、主です。もう一度、主イエスから「あなたがたは地の塩です。」と、大事な役目を与えられていることを、心に留めさせて頂きたいと思います。

**３，聖霊によって塩気を保つ**

では、私たちは、どのようにして、塩気を保てはよいのでしょうか。

並行記事である、マルコの福音書9章49、50節を開いてましょう。

「人はみな、火によって塩気をつけられます。塩は良いものです。しかし、塩に塩気がなくなったら、あなたがたは何によってそれに味をつけるでしょうか。あなたがたは自分自身のうちに塩気を保ち、互いに平和に過ごしなさい。」

「人はみな、火によって塩気をつけられます。」とありますが、この火というのは、聖霊の火を指しています。バプテスマのヨハネが、イエス様を指して、こう言っています。「私はあなたがたに、悔い改めのバプテスマを水で授けていますが、私の後に来られる方は私よりも力のある方です。私には、その方の履き物を脱がせて差し上げる資格もありません。その方は聖霊と火であなたがたにバプテスマを授けられます。」（マタイ 3:11）

ペンテコステの時、炎のように分かれた舌が、ひとりひとりの上に、とどまりました。これは、聖霊を意味しています。聖霊は、心の罪や汚れを焼き尽くす火なのです。人は、この聖霊の火によってきよめられるのです。つまり、私たちが、塩気を保つというのは、「聖霊によって、きよさを保つ」ということです。自分で、頑張って、この世の不正と戦い、この世を正しく導いて行こうというのではありません。

もし、自分の力で、そんなことをやろうとすれば、かえって、関係を壊してしまうでしょう。塩気を保つのは、対立ではなく、平和をもたらす為です。私たちが、この世にあって、塩気を保つ唯一の方法は、イエス様が言われたように「聖霊の火によって、塩気をつける」以外に、方法はありません。

まず、自分自身が、聖書のみ言葉を読み、祈る中で、聖霊に満たされ、罪からきよめられることです。聖霊によってきよめられて行くとき、その影響力が、自ずと、周りに及んで行くのだと思います。自分が力を行使するのではなく、聖霊がきよい力を発揮されるのです。

エゼキエル書に、神殿の下から流れ出た水が、死海に入り、そこに多くの魚が住むようになるという幻が描かれています。エゼキエル47章にありますので、ご存知ない方は、自分で聖書を開いて読んでみてください。死海は、イスラエルの中央にある、海抜がマイナス400メートルにある湖です。

流れ出す川がなく、塩分濃度が、通常の海水の10倍と、とても塩辛く、魚が住むことが出来ません。なので、死海、デッドシーと言われます。ちなみに、旧約聖書では「塩の海」と呼ばれています。塩分が濃すぎると、逆に、住めなくしてしまうことがあるのですね。私は、何度か、死海で浮いたことがありますが、絶対にクロールは禁止です。顔を付けてはならないのです。

エゼキエルが見た幻は、死海に、神殿の下が流れ出た水が入って行くと、そこに多くの魚が住むようになるというものでした。聖霊は、人の心をきよめ、かつ、生かします。きよさと、いのちを同時に与えるのは、聖霊だけです。私たちが、ほんとうに、地の塩としての役目を果たそうするなら、まずは、自分自身が、聖霊に満たされる以外に方法はありません。

今、この世界は、聖霊によって、悪に傾いて行くことに、歯止めが掛けられています。

Ⅱテサロニケ2:6、7にこうあります。「不法の者がその定められた時に現れるようにと、今はその者を引き止めているものがあることを、あなたがたは知っています。不法の秘密はすでに働いています。ただし、秘密であるのは、今引き止めている者が取り除かれる時までのことです。」

ヒットラーよりも更に邪悪な、世界的な「不法の人」の出現を留めているのは、聖霊の働きによるのだと聖書は教えています。しかし、やがて、聖霊の働きが、取り除かれるとき、世界は、ダムが崩壊するように、一気に悪に傾いて行きます。イエス様は、これを「誰も働くことが出来ない夜が来る」と言いました。（ヨハネ9：4）

しかし、今は、恵みのとき、救いの日です。（Ⅱコリント6:2）コロナ禍の中にあっても、聖霊は変わらず働いておられます。私たちに与えらている「地の塩」「世の光」の役割を、十分に果たして行けますよう、主に祈り、御言葉から教えられ、いよいよ、聖霊の満たしを求めて行きたいと思います。

私たちは、イエスキリストの福音は、本当に素晴らしいものだと体験して、知っています。しかし、世の中の多くの人は、そうではありません。私たちが、イエス・キリストの福音を伝えても、反発を覚えたり、否定されたり、人それぞれだよ。と突き放されたり、いろいろな反応が返ってきます。もちろん、信じて救われる方もおられます。

しかし、どういう反応であったとしても、私たちの役割は、信仰者の存在を通して、地の塩となって行くことです。福音は神の愛とともに、神の義を伝えます。神の救いだけでなく、聖書が啓示している危険や警告も、お伝えして行かなければなりません。それが、塩の役割だと思います。

今、新型コロナウイルスのワクチン接種が、進んでいますね。既に、打ち終えた方もおられると思います。当初、ワクチンが出来るまで、もっと時間が掛ると言われていました。ところが、約1年で、95％有効という、素晴らしいワクチンが出来たので、とても驚きました。詳しいことは分かりませんが、メッセンジャーRNAワクチンのお陰だそうですね。



それを開発したのは、カタリン・カリコ博士という、ハンガリー出身の女性科学者です。30歳のとき、社会主義体制だった母国ハンガリーの経済が行き詰まり、研究資金を打ち切られたそうです。通貨の持ち出しが厳しく制限される中、車を売って得た僅かなお金を娘の縫いぐるみ（テディベア）の中に隠し、アメリカに渡ることを決断します。何の保障もなく、アメリカに来て、研究を続けたのですね。

しばらく、評価されず、予算打ち切りや、降格が続き、それでも、諦めないで、研究を続けた結果、今回、コロナウイルスのワクチン開発に繋がったそうです。とても笑顔の素敵な、謙遜な方で、こうインタビューに答えておられました。「私のことをヒーローという人がいますが、それは違います。患者を治療する医師や看護師、それに清掃作業の人たち。感染のリスクがあり、命を危険にさらしている彼らこそがヒーローです。私は、ただ研究室にいただけです」

『どうにもできないことに時間を費やすのではなく、自分が変えられることに集中しなさい』それが、何度も壁に当たっても、研究を続けて来れた秘訣だそうです。これは、私たちにも当てはまるのではないでしょうか。結果がすぐに出なくても、何度、上手く行かなくても、自分に与えられた使命に、忠実に生き続けること。それしかないのだと思います。

キリスト者は、もしかすると、ワクチンのような存在なのかもしれません。自分も罪の痛みを経験し、しかし、イエス様の十字架で許され、赦された罪人として、この世に置かれているのです。自らが、この世の悩みも知って、それでも、罪に歯止めをかけるために、イエスさまによって「地の塩」としての役目を与えて頂いているのです。

今、次第に、ワクチン接種が進んでいますが、私たちも、地の塩として、キリストのきよさと愛が、浸透して行くように、罪の感染爆発が起こり、死に至ることがないよう、歯止めをかける役目を、しっかりと果たして行けたらと思います。その為には、たえず、主に祈り、聖霊に満たされ、御言葉に生きることだと思います。聖霊によって、私たちのうちに、塩気を保ち、歩んで行きたいと思います。

13節 あなたがたは地の塩です。もし塩が塩気をなくしたら、何によって塩気をつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけです。

マルコ9:50「あなたがたは自分自身のうちに塩気を保ち、互いに平和に過ごしなさい。」